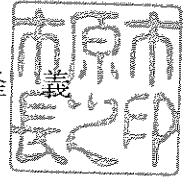




市土管第342号
平成20年10月20日

国土交通省道路局長 様

市原市長 佐久間 隆義



今後の道路行政についての意見・提案について（回答）

平素より本市の道路行政に対しまして、格別のご理解と御協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、平成20年9月19日付け、国道企第37号で依頼のありました標記の件につきまして、別紙のとおり回答いたします。

今後の道路行政についての意見・提案

様式 ①

①道路行政全般について改善すべき点、要望や提案など

千葉県 市原市

●多様な個性と魅力ある地域づくりにとって、基盤整備の骨格となる道づくりは、必要不可欠なものであり、高齢化をはじめとする社会的な転換期をむかえている道路行政全般についての意見としては以下のとおりです。

1. 自立した活力ある地域にするためには、産業の振興・主要な公共施設へのアクセス向上など、経済と暮らしを支える高規格幹線道路の整備推進とそれらを補完する都市計画道路などの幹線道路ネットワークの助成拡充をお願いしたい。

特に、圏央道は、観光やレジャーによる地域振興や情報文化の交流など、大きな期待が寄せられておりますので一刻も早い完了を強く要望いたします。

2. 低炭素社会を実現と物流の効率化を図る必要性から、国道などの渋滞対策。(右折レーンや交差点改良など)。

3. 安心・安全なまちづくりを推進するため、地域との協働により進めている「まちづくり」に必要な道路の整備や歩行者や自転車が安心して利用できる道路環境の構築及び既存道路施設の長寿命化を図るための助成拡充をお願いしたい。

4. 地形的・経済的視点から道路構造令の特例値採用を地域のローカルルールとしての制度化をお願いしたい。
(地域の特性に適合する構造基準の緩和措置 4車線→2車線の車線数の変更 1. 5車線道路での整備など)

②ー１ 地域の現状と抱える課題

千葉県 市原市

○現状	○課題
本市の広域性から街路計画は約220kmで、平成19年度実績での整備率としては67.2%である。 街路事業など道路整備には多くの財源が必要となことから、費用と効果の優先順位のもと、臨時交付金やまちづくり交付金などを積極的に活用し、幹線道路ネットワークや関連市道の整備に取り組んでいる。 (まちづくり) 本市は、市街化区域でありながら都市基盤が未整備な地域(以下:未整備地区)であって、具体的な整備計画を有しない地区が、約500㌥、市街化区域の8%存する。 これらの地区では、道路環境の改善(主要道路の整備、狭あい道路の拡幅)が主要な課題となっており、防災性や利便性に支障を来している。 このため、本市では、一部の地区をモデル地区と位置づけ、住民との協働により、問題の解消に向けて取り組んでいる。	市街地間や隣接市町村と結節し、国道道を補完するための幹線道路ネットワークの整備は以前から積極的に進めてきたところであるが、社会情勢や財政状況の変化に伴い、全線開通までの整備進捗に遅れが生じている。 また、今後の道路施設の老朽化対策への財政負担も大きくなることと予想される中、道路をめぐる状況はますます厳しさを増すと考えられ、財源をいかに確保し整備を行いつつ、適切な維持管理を実施するかが課題とされる。 未整備地区の道路問題の抜本的な解消方法としては、一般的には土地区画整理事業による面整備が考えられるが、これらの地域では、諸般の事情により、その実施が困難な状況である。 このため、モデル地区において、主要な道路計画を地区計画に位置づけるとともに、その他の生活道路については、住民の協力(建替時のセツトバックと用地寄付)に基づき整備する計画を住民との協働により策定している。 しかし、これらの面的な道路整備については、長期的な取り組みが必要であるものの、財政負担が大いことから、複数地域を同時並行的に進めることが難しい状況である。 なお、まちづくり交付金の活用も検討しているが、長期的・継続的な取り組みへの対応等が課題である。

②-2 地域の目指すべき将来像

千葉県 市原市

「ともに輝く、元氣なふるさと いちはら」

本市には、豊かな自然や歴史という、先人から受け継いできたふるさとの原風景と多様性に富んだ産業など、たくさんのかげのない財産があります。

これらを資源として、その保全・活用を図るとともに、ますます進行する少子高齢社会の中で、賑わいや地域経済の活性化を進めるためには、みんながパートナーとして力を合わせ、新たな魅力を創出することが大切です。

この魅力は、さまざまな価値観を持っている市民の交流をはじめ、豊かな自然や多様な産業など、多くの個性に支えられ、育まれていくものです。このことは、市民としての誇りと愛着を実現することにもつながります。

そこで、すべての市民が、心から「住んでよかった」「住み続けたい」と感じ、そして「住みたい」と思えるよう、誇りと愛情と笑顔があふれる新しいふるさと市原の実現をめざし、「ともに輝く、元氣なふるさと いちはら」を都市像としてまちづくりを進めています。

今後の道路行政についての意見・提案

③ 道路施策の重点事項(代表事例、期待する効果や評価等)

様式 ④

千葉県 市原市

○重点事項 地域・活力の向上	○代表事例	○期待する効果や評価等	○その他
高齢化・バリアフリー社会の形成	ノンステップバスの通行に支障がある交差点部などの局部改良に必要とされる事業費の助成	国県道を補完する市の道路整備を推進し早期完成を目指すことにより、渋滞の緩和が図られ、円滑な交通環境や地域の活性化が図られる。	○その他
戦略的維持管理の推進	築造後年数が経過した橋梁の長寿命化対策のほか、「舗装・トンネル・よう壁」など社会資本ストックの改築・更新などに対する事業費の助成	バス事業者のノンステップバスの導入計画との相乗効果により公共交通の活性化を促し、バリアフリー社会の構築及び市民サービスの向上に繋がる。	
(まちづくり) ・地域活力の向上	市街化区域内の未整備地区における道路環境の改善(面的な道路整備への財政的支援)	予防・保全的管理への転換が行われる事により、道路施設の安全性の向上と、ランニングコストの縮減が図られる。	
・水害等の災害に強い国土づくり		・防災性(地震、火災、水害)の向上 ・身近な生活環境の向上 ⇒未整備地区では道路が狭く、都市基盤整備が進んでいない状況から住民の不満も高く、早期改善が求められている。	
・良好な生活空間・自然環境の形成		このため、防災性や生活環境の底上げが期待できるともに、住民の身近な問題として、効果が実感されやすい。 ・自然空間、まちなみの保全 ⇒既存のまちなみを大幅に変えることなく、道路整備が可能のため、まちなみや緑地・池などの自然が保全される。 ・地域産業の活性化 ⇒中小規模な事業が中心となるため、地元の業者を活用しやすい。 また、道路が整備されることにより、民間事業者による開発行為や住宅建設の促進が期待される。	